

ビオラおよびパンジーの生育開花調査

島田有紀子・柴田昭洋

中国地方の生産農家で栽培されたビオラ24品種とパンジー5品種(表1)を各28株(径9cm)入手し、平成14年11月18日に芝生広場北花壇に定植した。11月下旬~5月上旬まで4ないし6週間毎に、草丈(地際から花を除く植物体の最も高い位置まで)、株張り、1株あたりの花数(調査時に展開している花の数)について調査し(図1)、別に冬期間中の耐寒性の程度、5月6日における植物体の倒伏程度および花色の退色程度を外観的に評価した。調査個体数は1品種あたり4個体とした。

草 丈

11月25日におけるビオラ24品種の平均草丈は4.1cmで、2月23日まではほとんど伸長しなかったが、3月中旬以降徐々に伸長しはじめ、5月6日にはかなり間延びし28.4cmとなった(図2)。ビオラにおいては品種間差が大きく、5月6日に最も草丈が大きくなった品種は「ソルベ・ブラックデュエット」で39cm、一方、草丈があまり大きくならなかった品種は「ソルベ・オレンジデライト」で18.7cmと、両品種ともソルベシリーズでありながら、草丈に関する特性は大きく異なった。



図1. 草丈及び株張りの測定方法

今回用いたパンジー「パティオラ」シリーズの5品種では、5月6日における草丈は23.3cmで、ビオラと比べ草丈が低かった。

株 張 り

11月25日におけるビオラ24品種の平均株張りは11.1cmで、2月23日まではほとんど増加しなかったが、草丈と同様、3月中旬以降徐々に基部分枝の生長が旺盛となり、3月23日に16.6cm、5月6日には31.7cmとなった(図3)。パンジー「パティオラ」シリーズと比べ、ビオラの方が全体に株張りが良く、もっとも大きくなったのはビオラ

表1. 5月6日におけるビオラ24品種およびパンジー5品種の生育状況

品種名	花弁の特徴	草丈(cm)	株張り(cm)	花数(個)	耐寒性	倒伏	退色
ビオラ エンジェル・ネットイッドイエロー	黄色に紫の縞	29.8	27.5	50.5	強	小	大
エンジェル・レッド1	濃赤色	27.7	33.3	32.5	弱	中	小
サビック・オーキッドピーコン	藤桃色の濃淡	34.0	36.0	75.5	強	大	大
サビック・ピーコン	青紫色	34.7	36.5	80.0	弱	大	大
ソルベ・YTT	白から青紫に変化	31.7	25.3	44.0	強	大	小
ソルベ・アンティックシェード	赤紫色	24.8	28.0	32.5	強	小	大
ソルベ・イエローデライト	黄色	35.0	40.3	43.5	強	小	小
ソルベ・イエローフロスト	上花弁紫色、下花弁黄色	24.0	30.8	39.3	強	中	小
ソルベ・オレンジデュエット	上花弁紫、下花弁オレンジ	31.5	30.0	33.0	弱	中	小
ソルベ・オレンジデライト	オレンジ	18.8	25.8	25.5	中	大	大
ソルベ・ココナツ	白	21.0	30.0	65.0	中	中	大
ソルベ・ココナツスワール	白に青覆輪	20.8	26.8	48.5	強	大	小
ソルベ・ココナツデュエット	上花弁紫、下花弁白	28.5	29.8	38.0	強	大	小
ソルベ・ブラックデュエット	上花弁濃紫、下花弁紫	39.0	33.3	40.0	強	小	小
ソルベ・ブラックベリークリーム	濃紫に中心が白	35.3	37.0	57.5	強	中	小
ソルベ・ブルー・ヘブン	青紫色	26.7	29.0	32.0	強	中	小
ソルベ・レモンシフォン	上花弁薄い黄色、下花弁黄色	23.0	24.5	30.0	中	大	小
ソルベ・レモンスワール	黄色に青覆輪	27.0	27.3	39.0	強	大	小
ビオレット・ステラ	青紫色	34.3	33.0	49.0	強	小	大
ビオレット・ニーベ	アイボリーホワイトに黄色の目	25.0	30.0	—	強	中	大
ビオレット・ルネ	薄黄色	35.3	34.5	58.5	強	小	大
ペニー・イエロージャンプアップ	上花弁紫色、下花弁黄色	30.0	28.7	79.0	強	中	大
ペニー・オーキッドフロスト	ローズ	33.3	38.3	47.0	弱	中	大
ペニー・オレンジジャンプアップ	上花弁紫色、下花弁オレンジ	36.0	45.0	72.5	中	小	小
パンジー パティオラ・バイオレットウイズイエローフェイス	紫に中心が黄色	22.3	27.0	32.0	弱	小	大
パティオラ・ピュアイエロー	黄色	21.5	26.0	40.5	中	小	小
パティオラ・ピュアオレンジ	オレンジ	25.0	20.7	29.5	中	小	小
パティオラ・ピュアライトブルー	紫	27.5	32.0	20.0	強	小	小
パティオラ・ピュアレモン	黄色	20.0	31.0	23.5	強	小	小

前年の11月18日に15cm間隔で花壇に植え付け、各品種4株調査。

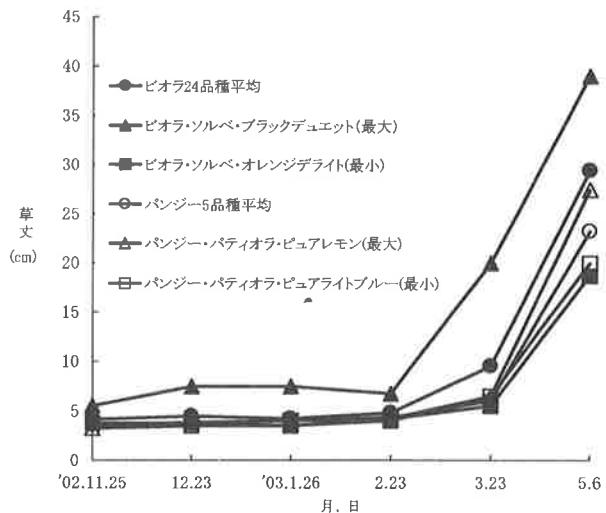


図2. ビオラおよびパンジーにおける草丈の経時的推移

‘ペニー・オレンジジャンプアップ’で、5月6日に45cmに広がった。

花 数

ビオラおよびパンジーとともに、冬の間も少しづつ花数を増やした(図4)。すなわち、11月25日ではビオラで1株あたり平均2.6個、パンジーでは平均0個であったが、2月23日にはそれぞれ9.2個、2.7個、3月には21.9個、8.2個、さらに5月6日には急増して48.4個、29.1個となつた。5月6日に花数が最も多かったビオラは‘サピック・ピーコン’で80個、最も少なかった品種は‘ソルベ・オレンジデライト’で25.5個であった。

表1に調査した全品種について、前述の草丈、株張りおよび花数を5段階で評価するとともに、耐寒性と5月6日における倒伏および退色程度をそれぞれ3および2段階で評価した。

ビオラおよびパンジーはともに、冬の代表的な花壇苗で耐寒性があるが、ビオラ‘エンジェル・レッド1’や‘ソルベ・オレンジデュエット’などは冬期間中に枯死しないものの、花弁の傷みが大きく、観賞価値が低下した。

また、倒伏については、一部の品種を除き、草丈が高くなつた品種ほど倒伏しやすい傾向にあった。退色については一定の傾向は認められなかつたが、濃い色が冬に薄く、またローズ色は春にはやけるように思われた。

考 察

近年パンジー、ビオラの品種が多様になり、現在流通する品種は500を超える毎年新品種が発表されている。本来は長日および低温要求を示すため春に開花する植物であったが、育種によりこれらの要求が小さくなつた秋

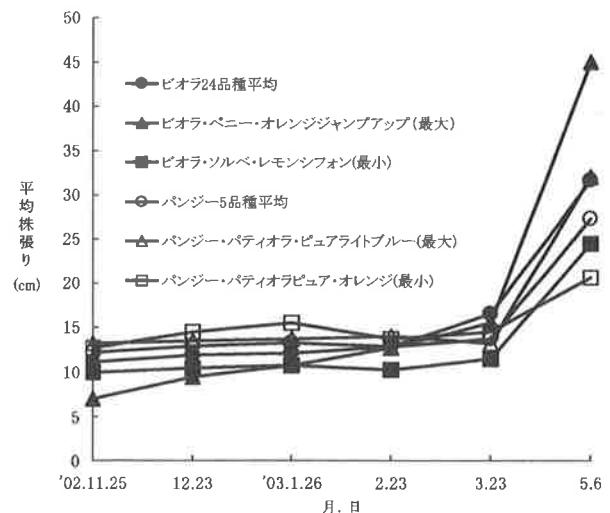


図3. ビオラおよびパンジーにおける株張りの経時的推移

咲き性の品種が増え、植物園などの施設では晩秋に定植して春までの長期間を装飾するケースが多くみられる。しかし一方で、春に気温が上昇すると、急速に徒長して倒伏し観賞価値が低下するのが両種の問題点である。よって、4月に抜き取るのが理想的であるが、植物園などの施設の場合、集客の多いゴールデンウィーク前に新しい素材と植え替えると、新しい苗が小さいために株間の土壌が目立つて美しくなく、4月の植替えは望ましいとはいひ難い。また、春播き一年草の多くは耐寒性がないため、できれば遅霜の心配が完全になくなるゴールデンウィーク明けの植替えが好ましい。

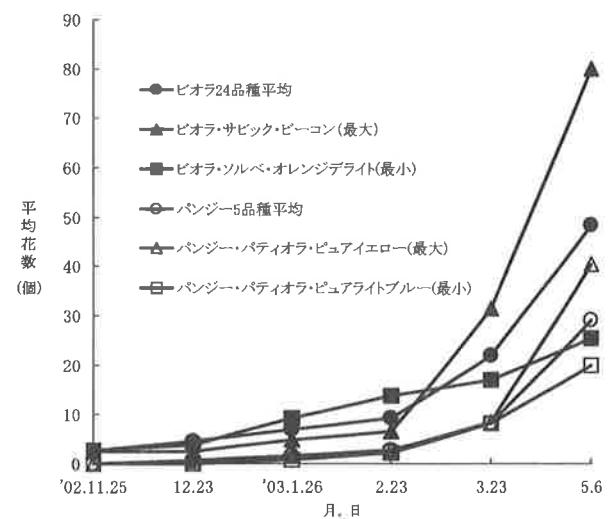


図4. ビオラおよびパンジーにおける花数の経時的推移

そこで冬花壇から春花壇への植え替え時期を5月上旬にすることを目指し、一般にパンジーよりも徒長しにくく観賞期間が長いといわれるビオラを中心に品種を収集し、調査した。その結果、ビオラにおける品種間差異が大きく、5月上旬には草丈が伸びて倒伏がみられるとともに花色が薄くなり、観賞価値がかなり低下する品種がみられ、品種の選択が重要であることが分った。しかも同じシリーズ間であってもその品種間差異は大きい。本調査の結果から、総合的にみれば、「ソルベ・イエロー・フロスト」、「ソルベ・ブルー・ヘブン」が好成績であったといえよう。

また、今回ビオラと同じ条件で栽培したパンジーに‘パティオラ’シリーズを用いたが、本品種は従来のパンジーよりも徒長しにくいといわれており、実際今回使

用したビオラと比較して品質が劣ることはなかった。すなわち、冬の間に花数が少ないという点を除き、観賞価値がかなり高いように思われた。

なお、ここでは調査結果を示さなかつたが、正面大花壇にはパンジー‘ナチュレ’シリーズを植えた。本品種はミニパンジーであり、春の徒長が少ないとされるビオラの特性を持ち備えているといわれている。実際、春の徒長はみられなかつたが、ローズにおいて低温期に花弁のくすみが生じて4月中旬まで観賞価値が低かつたようと思われる。全体的にみると、花色では青と黄色が無難ではないかと感じられた。

今後はパンジー‘パティオラ’シリーズとも合わせて
パンジーの品種間差異を調査する必要がある。

園内氣象記錄

平成15年1月1日～12月31日

月別	気温(℃)				降水量 (mm)
	平均最高	平均最低	月最高	月最低	
1月	8.9	0.8	14.9	-3.9	46.0
2月	10.7	2.9	15.9	-0.8	57.5
3月	13.4	4.2	21.5	-0.1	93.5
4月	19.5	11.1	25.0	3.5	205.5
5月	24.6	15.4	28.9	8.1	189.0
6月	26.5	19.7	30.6	14.9	202.0
7月	28.3	21.9	32.4	17.6	466.0
8月	31.1	24.3	33.8	19.7	184.5
9月	29.6	21.2	34.1	14.9	94.5
10月	23.1	13.0	29.9	6.3	1.5
11月	18.5	11.4	24.4	4.1	131.0
12月	12.5	3.5	17.8	-0.6	39.0
合計					1710.0

(参考) 最高気温記録日 8月3日, 8月6日, 8月22日, 8月23日 33.8°C

最低気温記録日 1月30日 -3.9℃

最大雨量記録日 7月13日 63.0mm

※平成15年は広島地方気象台の「広島」の観測値を記録する。

(井上尚子 記)